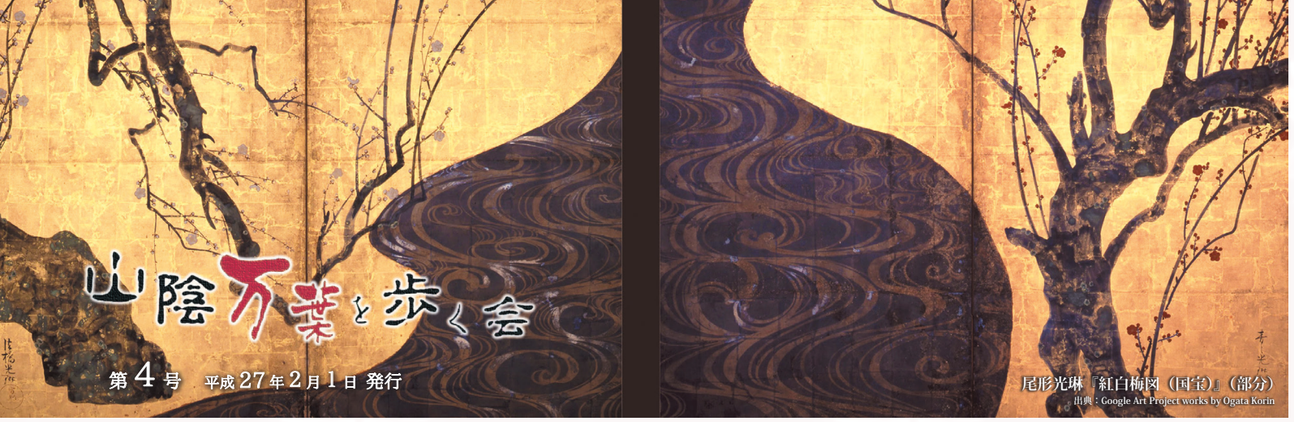

尾形光琳「紅白梅図（国宝）」（部分）
出典：Google Art Project works by Ogata Korin

「山陰万葉を歩く会」共催

栗栖さん（益田）大会長賞

人麻呂顕彰の第一回全国短歌大会始まる

益田市にゆかりの深い万葉歌人・柿本人麻呂にちなみ、全国から短歌を募集する「第1回柿本人麿公顕彰全国短歌大会」が22日、同市駅前町の駅前ビル「EAGA（イーガ）」で開かれた。全国14都県から応募があった139首から、同市匹見町道川、主婦栗栖絹枝さん（88）のしめ縄づくりの情景を表現した作品が、最高賞の大会長賞を受賞した。作品は

定まらぬ
秋日の晴を見定めて
注連縄（しめなわ）用の青稲を刈る

地域の住民グループでしめ縄づくりに取り組んでいる栗栖さんが、稲を刈り取ってすぐに天日干しする作業にあたり、秋空を気にかける思いを詠（うた）った。

講評で、選者を務めた日本歌人クラブ名誉会長の秋葉四郎氏（77）が「しめ縄を飾るお正月を大切に思う気持ちが伝わってくる」と高く評価。栗栖さんは、秋葉氏が編集人を務めている歌誌「歩道」に約30年にわたって投稿しており、受賞に「短歌は生きがい。今後も創作を続けたい」と喜んだ。

大会は、柿本人麻呂の生誕と終焉（しゅうえん）の地との伝説が残る益田市で、短歌を通した交流の機会を設けようと、市柿本人麿公顕彰会と市などでつくる実行委員会が企画。一般、高校生、小学生の3部門で合計21首の入賞作を選んだ。秋葉氏による記念講演などもあり、受賞者ら約80人が聴き入った。他の上位入賞者は次の皆さん。

益田市長賞 大畑房子（益田市）▽益田市教育長賞 香川哲三（広島市）▽益岡市文化協会会長賞 藤井順子（益田市）▽益田市観光協会会長賞 城市江梨子（同）

（平成二十六年十一月二十三日山陰中央新報の記事より）

選者を務めた日本歌人クラブ名誉会長の秋葉四郎氏

『奨励賞　秋葉四郎選』

（小学生の部）

全員で走って跳んだ運動会
頑張ったけど一歩とどかず
高原小五年　岸　南

空見上げふわふわふわり
ひつじ雲
風にのってどこまでいくの
高原小五年　柘植さくら

水たまり自分が二人
立っている
しずくがおちて笑顔もゆれる
高原小六年　長谷川琉星

（高校生の部）

夜テレビ寝る前スマホ
メディア漬け
家族と会話するひまもなし
翔陽高校二年　原恵里佳

夕焼けを見ながら帰り
ふと思う
来年からは見れない景色
翔陽高校三年　渡辺直美

静寂に夜風が優しく髪を撫で
遥か遠くに住む君想ふ
翔陽高校三年　村上　聖

『平成二十七年度の予定』

(1)二月十一日(水・祝)
「山陰万葉を歩く会」理事会
（米子市）

(2)二月十五日(日)午後二時～
「ヒト・マル」創作オペラ上演
会場：石見芸術文化センター
（グラントワ）
☎0856-31-1860
（グラントワ）

(3)三月一日(日)
万葉フェスティバル
会場：地場産業振興センター
三月二日(月)　江津市・益田市万葉ゆかりの地見学会
※他県の方々の石見訪問のおもてなしをします。
☎0855-52-7494
（山陰万葉を歩く会事務局）

(4)三月二十四日(火)、二十五日(水)
叶う旅
☎0856-31-0106
（益田市観光交流課）

(5)十一月七日(土)、八日(日)
放送大学面接授業「（仮題）古代・中世・近代の石見の重要性」
☎0852-28-5500
FAX 0852-28-1800
（放送大学島根学習センター）

※前後で万葉や中世や幕末の石見他のゆかりの地を巡るツアーを開催します。

十一月六日(金)：萩～津和野～益田他
十一月九日(月)：江津～石見銀山～出雲大社他
☎0856-31-0106
（益田市観光交流課）

アクアスに万葉・石見の海出現!?

しまね海遊館アクアスに、「辛（から）の崎（さき）」（現・江津市波子町大崎鼻灯台付近）の荒磯を再現し、周辺の日本海に棲息する多くの魚たちを展示する「石見万葉の磯」が登場します。公開は三月末の予定です。乞う御期待。

「石見万葉の磯」の完成予想図

「山陰万葉を歩く会」ご入会のご案内

■「山陰万葉を歩く会」の概要
○会長　川島　芙美子（風土記を訪ねる会代表）
○副会長　木谷　清人（鳥取市公益文化財団理事長）
○アドバイザー
藤岡　大拙（荒神谷博物館館長）
内田　賢徳（萬葉学会代表）
末成　弘明（いわみ芸術劇場館長）
○年会費　個人2千円、団体1万円

■会費の振込先
①ゆうちょ銀行　一三九店　当座　0052297
山陰万葉を歩く会
※ゆうちょ銀行口座からの振込は、口座記号番号　01340-4-25597
※会報に同封の振込用紙を使うと手数料無料
②山陰合同銀行　江津支店　普通　3659557
山陰万葉を歩く会　会長　川島芙美子

■申し込み・問い合わせ先（事務局）
江津市役所　商工観光課　観光振興係
電話　0855-52-7494
FAX　0855-52-1379
メール　shokokanko@city.gotsu.lg.jp

『編集後記』

新しき　年の始めの
初春（はつはる）の　今日降る雪の
いや重（しき）け　吉事（よごと）

因幡（いなば）の国主（こくしゅ）・大伴家持（おおとものやかもち）の新年を祝う歌です。新年にあたり、人々の平安も、日本全体の繁栄もこめたといわれます。

今年は、元旦に全国的に雪が降りました。万葉の時代も、今も、自然の営みは変わりません。

「地方創生」が見直される今、山陰の豊かな自然が生み出す、食、祭、芸能など、そして産業が、万葉の波をくぐり、万葉の衣をまとって、再び、豊かさとして皆様にご提供できるように、皆様のお力やお知恵をお借りしたいと思います。

どうぞ、何かヒントになるようなご意見、ご提案をいただき、ご支援、ご指導くださいますようにお願いいたします。

（事務局）

「山陰万葉を歩く会」共催

人麻呂と安来の縁知る
関和彦氏、川島芙美子会長講演・大谷香代子氏披講

「人麻呂さんが安来にいたんだって？」と題した講演会が22日、安来市安来町の安来中央交流センターであり、山陰万葉を歩く会会長の川島芙美子氏らが、安来に残る万葉歌人・柿本人麻呂の伝承や、ゆかりがあるとされる同市伯太町の木彫り神像について話した。

川島氏は、日立金属海岸工場（安来市飯島町）付近にかつてあった「仏島」と呼ばれる小さな島に、人麻呂の石碑があったと紹介。現在は日立金属山手工場（同市安来町）に残っているとした。その上で、安来町から伯太町の寺院に移された神像に言及。鎌倉末期ごろに頓阿（とんあ）法師（1289～1372年）が手がけた人麻呂像300体が「当時豊かだった地域にわたっている」と説き、「（安来の神像も頓阿作の）可能性はある」とした。

このほか、元県古代文化センター客員研究員の関和彦氏が「出雲と万葉・彷徨（さまよ）ふ人麻呂を求めて」と題して話し、出雲文化伝承館副館長の大谷香代子氏が万葉歌を読み上げた。

講演会は十神、社日両交流センターなどが人麻呂と安来の縁を学び、地域への関心を高めてもらおうと開き、約80人が聴講した。

（平成二十六年十一月二十五日山陰中央新報の記事より）

熱心に聴講する参加者の方々

講演する関和彦氏

五十猛の人丸御神像

山陰万葉を歩く会・五十猛歴史研究会　林　康二氏
三井　淳氏

十七世紀の後半、五十猛の大崎ケ鼻に端を発した人丸の祭祀は、五十猛町の旧家土肥屋（林家）の庭園内亀山との行き来を繰り返して、最終的には亀山に定着し大正時代まで続いた。当然ながら、遷社のごとに、頓阿法師の人丸御神像は、流転を余儀なくされたようなのである。

亀山の御神像は、その後土肥屋邸宅内の神棚に祀られたようである。神棚の主祭神は龍神さんであるが、向かって右側が人丸の祭壇となる。五寸五分の木像がすっぽり収まるスペースが空けられており、今は木像当寸大の写真が代役を務めている。残念ながら現在のところ御神像は行方不明なのである。

講演会の様子

御神像が実在した証拠は色々とある。神棚の御神像を様々な角度から撮った写真が存在し、引き合いとなるショートピース箱から、その倍ほどの大きさであったことが分かる。さらには歌聖像と墨書されている木箱もあり、御神像がちょうど収まる容量である。これはいづれも土肥屋に現存している。

昭和十三年七月十五日の大阪朝日新聞に、三隅の詩人木村晩翠が、五十猛土肥屋の御神像にまつわるエピソードを記している。祭祀が始まって間もない明和九年（一七七二）、時の当主林察右衛門貴熊が、津和野藩主亀井能登守矩貞公に上書して御神像の上覧を請うた。公は一見して「彫刻の非凡　古色を激賞」し、「柿本明神祠碑」の書と、御手製の土器皿を下賜したという。これらも今なお土肥屋に蔵されている可能性が高い。

結局外堀は全て埋まっているものの、肝心の御神像だけが現在はない。昭和五十二年八月十七日の山陰中央新報の記事によると、昭和四十年頃までは所在が確認されていたという。不明に及ぶ経緯も判然としないが、今後発見されうる可能性もあるであろう。

昨今川島先生が再三五十猛においでになり様々な示唆をいただいた。ここいらで五十猛における人丸信仰の復活を宣言しておきたいと思う。

会員の感想

「山陰万葉を歩く会」共催

すばらしい「恋と神話」の旅に参加して

山陰万葉を歩く会　山田　富子氏

平成二十六年十一月二十三日～二十四日、山陰万葉を歩く会会長・川島芙美子先生、益田市観光交流課・中島光太郎様、多数のボランティアガイドの方々のお世話になり、大変楽しいバス旅をさせていただきました。初対面の参加の方々ともすぐ親しくさせていただき、話に花が咲き、テンション高い二日間でした。

短歌大会に続き、石見地方の人麻呂ゆかりの地をめぐるツアーが行われた

高津柿本神社、万葉公園、大崎鼻、高角山公園、柿本人麻呂と依羅娘子の銅像と歌碑・相聞歌、数々の歌碑、人麻呂の歌と恋に酔いました。多鳩神社では「ナギ」の大樹に出会いました。多鳩神社は海神として崇敬された神社ですが、日本サッカー協会のシンボルマークである八咫烏（やがたらす）の伝説が残る神社でもあります。

夜は浜田のホテル松尾で、のどぐろ料理をはじめ、数々の海の幸、ごちそうをいただきながら石見神楽観覧。お座敷での間近に迫る大蛇（おろち）に、思わず悲鳴をあげました。恵比須さんの鯛釣りには、見ている私達も笑顔になり、引き込まれました。演者の方は四歳から石見神楽を始められ、四十年のキャリアとお聞きし、驚きました。手の指先、足の指先まですばらしく、しなやかで躍動感あふれる動き。速いテンポの神楽舞に感嘆しました。

二日目は五十猛（いそたけ）に始まり、静之窟（しずのいわや）、子どもの頃来た事を思い出し、とても懐かしい気持ちで一杯になりました。出雲大社では川島先生のおかげで正式参拝。本殿で神官の方に丁寧な説明をしていただきました。神紋入りのお菓子にお茶、御神酒もいただきました。最後に島根県立古代出雲歴史博物館。色々詳しく説明していただきました。何回も来館しているのに知らなかった事が多くありました。

高角山公園の依羅媛像の前で記念撮影

正に「恋と神話」の旅でした。こんなに充実した贅沢な旅をたくさんの方に体験してほしいと思いました。次回、案内がありましたら是非、皆様参加なさることをお勧めします。お世話になりました方々、楽しくご一緒させていただいた皆様、本当にありがとうございました。紙面をお借りして、お礼申し上げます。

万葉の食

万葉食を召しあがって万葉ウォークすれば美肌まちがいなしです。試みてみませんか？

万葉花こみち定食

島根県立万葉公園内
やすらぎの家（益田市）
☎0856-22-2133

柿本人麻呂が石見相聞歌の中で妻の黒髪に例えた〝玉藻〟を表現した「とろろ昆布入り山菜うどん（そば）」、万葉集に詠まれる椎の実を粉にして作る「椎（しい）の実　ごま豆腐」、益田市特産の柚を器に末広がりの八つの食材を用いた「八種（やくさ）なます　柚釜（ゆずがま）入り」、万葉集に登場する桜の花をかたどった「桜寿司」の定食。

万葉弁当

中央弁当（江津市）
☎0855-52-3393

万葉フェスティバルでも人気の万葉弁当は、柿本人麻呂と依羅娘子の二人が食べたかもしれない地元の食材を使い、昔ながらの食材、味付け、調理方法を研究、再現してつくられています。

お弁当の中は、古代米、あわ飯、あじの干物、鶏の黒砂糖しょうゆ焼き、お煮しめ、焼豆腐のねぎみそ焼き、あさりのしょうが煮、きび団子など。

次回は、万葉・美肌グルメを紹介します。御期待下さい。